

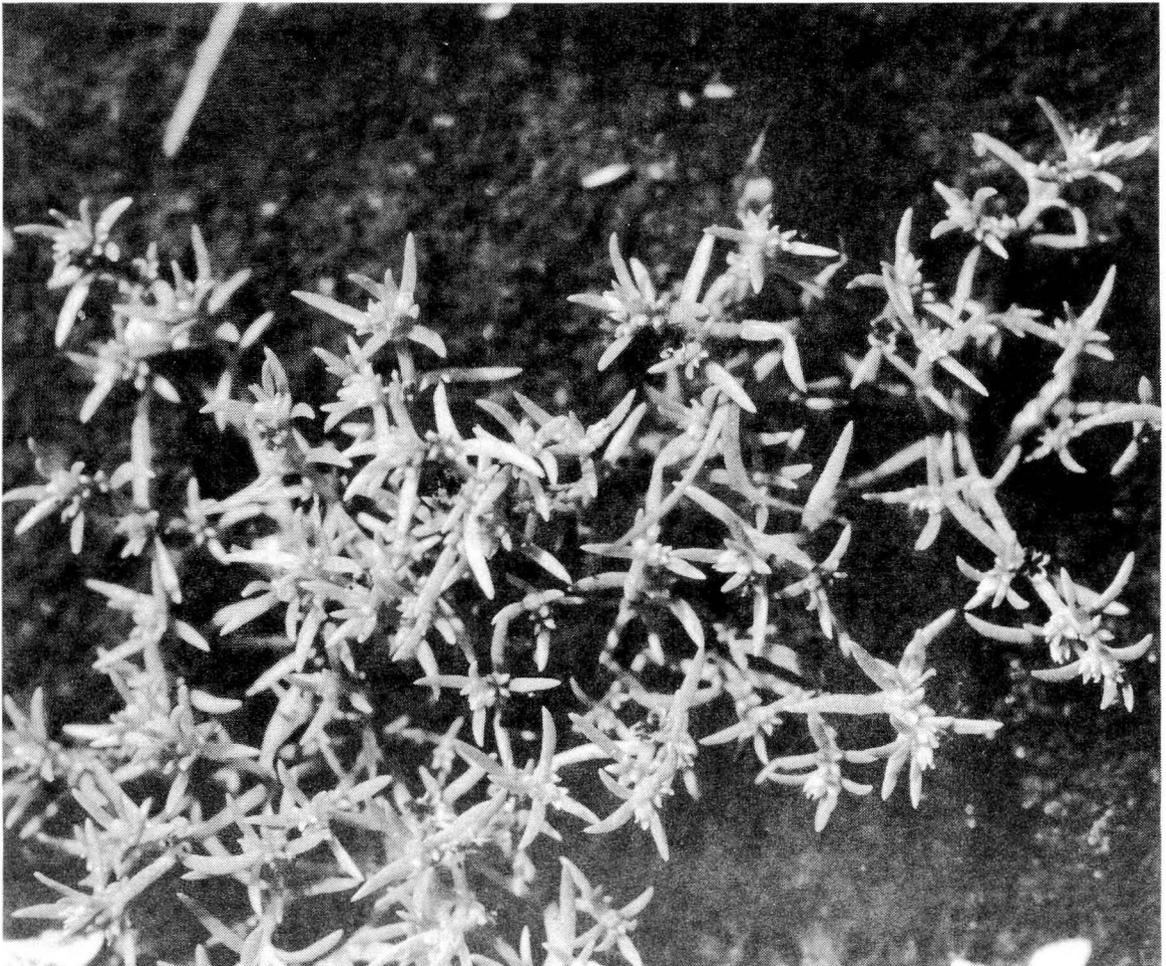
FLORA KANAGAWA

AUG. 1. 1983

No. 14

神奈川県植物誌調査会ニュース 第14号

231 横浜市中区南仲通り5-60 神奈川県立博物館内
神奈川県植物誌調査会(振替口座 横浜 10195)
TEL 045-201-0926



アズマツメクサ

(ペンテイソウ科)

水田や湿地に生える雑草ですが、神奈川県では珍しいものです。これを5月15日の重点地区調査の折に小田原市坊所で採集しました。全体の形は和名のツメクサによく似たもので、葉は細く、茎は分枝していますが、注意して見ると葉腋に白い4弁花が観察できま

す。果実も4個が集まり、小さいながらキリンソウ属のものによく似ています。本県の古い記録では、平塚市、茅ヶ崎市、横浜市緑区、登戸などにありますが、まだ今回の調査では採集されておられません。

高橋秀男

神奈川県のパラ

榎山 泰一

神奈川県には6種類のパラ(*Rosa*)が野生している。その中、サンショウバラだけが§Platyrhodonという節に入り、他はみな§Synstylaeである。ふたつの節は次のように区別される。

節への検索：

花柱は離生。萼筒は杯形で、外面には強い刺がある。瘦果は萼筒内基底の高まり(torus)の上のみつく。小葉は数が多く、長さ2.5mmに達しない。

§Platyrhodon サンショウバラ節

花柱は柱状に癒着し、萼筒の喉部から抽出する。萼筒は壺形で、無刺。瘦果は萼筒内の基底から側壁へかけてつく。

§Synstylae ノイバラ節

次に6種のパラの種への検索表を掲げると：

花柱は離生し、綿毛を有し、萼筒の喉部から出て、低い頭状に集まり、萼筒の喉部をふさぐ。萼筒もしくは果実は扁球形で大きく子房の外面(果面)には硬い刺を多生する。萼筒の外面(地)は無毛。萼片は広卵形、剪裂して縁に大きな裂片をわかつ。花は単生し、大形で、淡紅色。小花梗は短い。小葉は数が多く、9~19個、狭い長楕円形、葉裏の主脈上と羽軸に軟毛がある。幹は高く太くなり、小高木になる。枝は稲妻形に曲り、強い刺を有し、樹皮は淡褐色で、後に剝離する。

Rosa hirtula サンショウバラ

花柱の上部は互にゆるく癒着して単柱をなし、萼筒の喉部から抽出する。花は小形で白い。

a. 花柱は無毛。托葉は腺質で、細く深く裂ける。小葉は7~9個、倒卵状長楕円形、質は軟かくて多少しわがあり、葉裏と羽軸には軟毛がある。花はふつう小さく、数多くついて円錐形の花序をなし、花序は有毛かつ腺質、小花梗は彎曲し上向する。果実は卵状楕円形ないし球形で小さい。

Rosa multiflora ノイバラ

a. 花柱は有毛。托葉は全縁または腺歯牙縁。

b. 花は小数、枝の先に1~2花束生し(花序の軸がない)、まれに下に続く葉腋からも花が出て3花、また4花になることがある。小花梗はたくて長く、やや彎曲して上向し、ふつう有柄の腺がある。花はやや半開し、果実は楕円を帯びて大きく、長さ7~12mm。前年の枝はたく、刺は細長い。葉は5~7小葉からなり、小葉は薄く、葉裏は霜白、頂小葉は側小葉より大きく、楕円状卵形で鋭尖頭。

Rosa jasminoides モリイバラ

b. 花は数が多く、大きな、または短い円錐形の花序をなす。果実はやや小さい。

c. 主幹は上向して彎曲し、分枝の末は他物に寄りかかっている。花は短い円錐花序をなし、小花梗は強くて横に開く。

d. 花はやや密。主幹はたく、木になり、径

15cmに達するものがある。密に枝をわかつ。葉は7~9小葉からなり、頂小葉は側小葉と互にやや同大で広楕円形ないし楕円形、縁には細かな鋭い鋸歯がある(近似種の中で最も鋸歯が細かい)。乾くと葉は黄赤褐色になる。

Rosa fujisanensis フジイバラ

d. 花はやや疎。主幹はやや蔓性でありあまり太くならない。葉は5~7小葉からなり、頂小葉は側小葉より大きく、卵状楕円形で、鋭尖頭。卵状鋭尖形のややあらい鋸歯がある。

Rosa luciae アズマイバラ

c. 主幹は長く匍匐し、側枝は直立してその先は花序になる。花は大きく、大きな円錐形の花序になるものがある。花序の主軸は稲妻形に曲り、その分枝は狭い角度で斜め上に向う。苞は幅広く、緑色で、縁は剪裂し、萼片には著しい小裂片が出る。葉は7~9小葉からなり、頂小葉は側小葉と互にやや同大で、ふつう円形ないし楕円形、円頭。質は厚く、平滑で、光沢があり、上面は深緑色、下面は黄緑色。托葉は幅広く、緑色で、縁は剪裂する。果実は大きく、卵形ないし球形、赤熟し、光沢があり、高い花盤を頂く。

Rosa wichuraiana テリハノイバラ

1. *Rosa hirtula* (Regel) Nakai サンショウバラ
富士：箱根地方(甲斐・相模・駿河)の、クリ帯からブナ帯にわたる山地の、疎林の中に生じ、花季は6月。日本では、ほかに産地のないこの地帯特産の種類である。

2. *Rosa multiflora* Thunb. ノイバラ

北海道西南部から本州、四国、九州の平地、山地にふつうで、朝鮮にも分布する。このバラは湿地にも入り、ヨシなどと混生していることがある。花季は5~6月ではよい。

3. *Rosa jasminoides* Koidzumi モリイバラ

本州関東以西、四国、九州一帯の山地に生じ、おもにクリ帯に見られる。関東では600m以上1200mに至る高さのところに生えている。日本海側には分布しない。花季ははやく、5月初めから咲きはじめる。

4. *Rosa fujisanensis* Makino フジイバラ

御坂山地、富士、箱根、丹沢一帯に多く、北は秩父山地に及び、西は大和山から四国中央山地に点々と分布する。このバラは、近縁の種類の中で最も標高の高いところに産し、ブナ帯の疎林地や裸地に生育している。花季は6~7月でおそい。

5. *Rosa luciae* Franchet et Rochebrune アズマイバラ。オオフジイバラ、ヤマテリハノイバラともいう。

関東、東海地方の産で、陸前以南、西は三河豊川(川の名)附近まで分布する。丘陵地、低山地に生じ、中部山地のような標高の高いところにはない。乾いたところ、岩のあるところに多い。花季は5~6月。

6. *Rosa wichuraiana* Crepin テリハノイバラ

本州、四国、九州から琉球、朝鮮、中国山東省に分布する。陽地を好み、海岸から標高1200~1300mのブナ帯の裸地や草原にも生えている。花は6~7月、近縁種の中で最も花季がおそい。

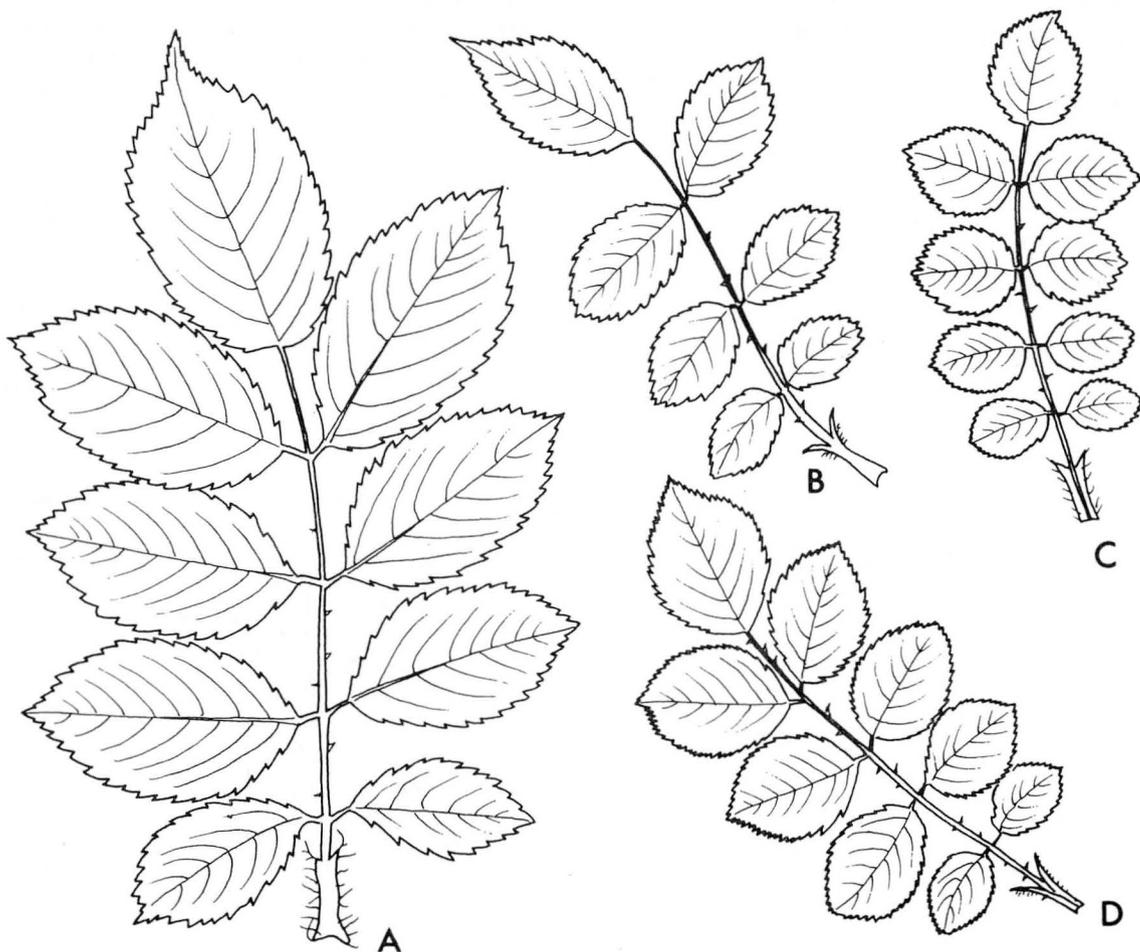


図1 A. ノイバラ, B. アズマイバラ, C. テリハノイバラ, D. フジイバラ

奥湯河原のシダ植物採集記

昭和57年6月6日、小田原市郷土文化館主催の「湯河原のシダ植物を勉強する」会に参加した。

リーダーは飯田和先生、松岡輝宏先生。奥湯河原の不動の滝の周辺より実物を観察しながら歩き始め、湯河原温泉境に向って講義をききながら進行した。

日本には約850種、神奈川県には240~250種、その内湯河原には約150種位生育している。7月から11月の孢子成熟期に季節風に乗って無数に飛来した孢子が着地生育するのに、湯河原は温泉の噴出と共に温暖な気候が非常に適している、ということである。

温泉の噴出口あたりにはナガサキシダモドキをはじめカギカズラ、ホウライカズラ等の珍しい植物もあるが、まむしの多い場所に対応準備が必要なので、一般には入ることはむづかしい。

川に沿って歩き、アジアンタムに以たハコネシダを

採集、その外コバノヒノキシダ、ヒメノキシノブ、クマワラビ、オクマワラビ等初めての対面。橋を渡り左の小高い山に向かって進み、水っぼい場所で栗の葉にソクリサンのクリハランを採集した。

ヤブソテツ、ヤマヤブソテツ、オニヤブソテツ、ヒロヤブソテツ等類似のものは初心者には区別が付き難く、又、ウラジロのように一節一年かかり、同好者の採集したものが9年生であった事など驚きの眼をみはる。

シダ植物以外ではサイハイランの採集があり、目を引いた。

奥湯河原のバス停で採集物について又一通り復習し、散会した。

狭い範囲であったが同好者全員でシダ植物62種許り採集したので参考までに記載する。

イネ科植物もそうであるが、シダ植物は特にどの顔も皆同じように見えるので、よほど親密な親せきでき合いをしなければ区別がつかないと痛感した次第である。

ヒカゲノカズラ科——トウゲシバ

イワヒバ科——クラマゴケ

トクサ科——スギナ

ハナワラビ科——オオハナワラビ

ゼンマイ科——ゼンマイ

カニクサ科——カニクサ

ウラボシ科——ウラボシ

イノモトソウ科——ハコネシダ、イワガネゼンマイ、イワガネソウ、フモトシダ、タチシノブ、ワラビ、オオバインモトソウ、アマクサンダ、オオバハチジョウシダ、イノモトソウ

オンダ科——ホソバカナワラビ、オニカナワラビ、リョウメンシダ、イヌワラビ、ヤマイヌワラビ、ヒロハイヌワラビ、シケチンダ、キヨシミヒメワラビ、ホシダ、キヨタキンダ、オニヤブソテツ、ヤブソテツ、ヤマヤブソテツ、ヒロハヤブソテツ、ヘランダ、ノコギリシダ、イワヘゴ、ベニシダ、クマワラビ、オクマワラビ、オオイタチシダ、ヤマイトチシダ、シケシダ、ナチシケシダ、イヌガンソク、ゲジゲジシダ、カタイノデ、ツヤナシイノデ、イノデ、サイゴクイノデ、イノデモドキ、ジュウモンジシダ、オオキヨスミシダ、ミゾシダ、ヌリワラビ、ヒメワラビ、ミドリヒメワラビ

シンガシラ科——コモチシダ

チャセンシダ科——トラノオンダ、コバノヒノキノダ、イワトラノオ

ウラボシ科——マメヅタ、ヒメノキシノブ、ノキノブ、クリハラシ

米山 智恵子

帰化植物のニューフェイス・アメリカ トゲミギク宮ヶ瀬に産す

昨年(1982)9月23日内田藤吉先生の御指導で茅ヶ崎植物会の観察会が水没間近の宮ヶ瀬付近で催された。その際会員の齋木操さんが路傍で正体不明のキク科植物を採集された。

茎と分枝に長い柔毛を生じ、葉は対生し、広楕円形上部に微鋸歯があり、基脚は楔形で、両面は有毛；頭状花序は腋生か頂生、舌状花冠は淡黄色；苞果は圧偏、曲った短刺を粗生し、頂端に左右不同の角状の直生突起がある。一見フッサキノウに似ているが、果実の形状、特に頂部の角状刺の形が全く異なっている。どの植物図鑑にも掲載されていないし、どなたにお尋ねしても不明だと言う。齋木さんに手許の中国高等植物図鑑・第四冊(1975)の菊科のところを調べる様に依頼した。

その結果この図鑑の498頁、図6391 *Acanthospermum austral* (L.) O. KUNTZE (刺苞果) に一致することが判った。

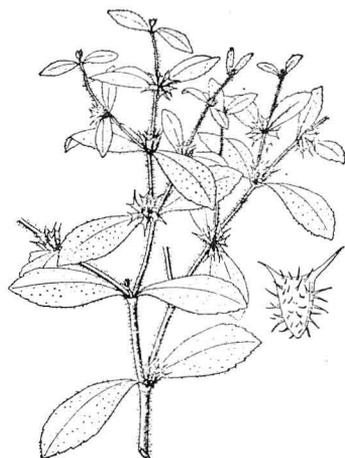
この植物は初め P. LOEFLING が *Melampodium australe* LOEFL (1758) として発表し、次いで A. P. DE CANDOLLE が *A. xanthoides* DC (1836) とし、1891年に K. E. O. KUNTZE が *A. australe* (LOEFL.) O. Kuntze と組替えたものである。従って中国高等植物に用いられている (L.) は (LOEFL.) の間違えであると思われる。

本種は南米原産で、北米ではヴァージニアからフロリダ、ルイジアナにかけて生育し、熱帯地方に雑草として広く帰化している。中国では雲南省から採集されている。戦中仏印から雲南に援将ルートがあったし、昆明には B 29 の基地があった。恐らく雲南のものは米国から渡来したものであろう。

わが国のものも多分米国經由で帰化したものと推定される。これは本邦初記録と思われる。

和名は学名と中国名からアメリカトゲミギクとしたい。

茅ヶ崎市 平和学園 小原 敬



アメリカトゲミギク (仮称)

(中国高等植物図鑑 第四冊より転写)

丹沢山塊のムヨウランはマヤランである

林弥栄氏他による「丹沢山塊の植物調査報告」(林業試験場研究報告第133号)の98頁に、ムヨウラン *Lecanorchis japonica* Bl. ミノゲ(柳川)稀。とある。この報告は私が1950年6月23日に採集、着色スケッチしたものが基になっている。これは当時、東京営林局と神奈川県によって作られた「丹沢——その自然と山歩き」(昭和36年11月、全国林業改良普及会発行)のなかで、ハイキングコースの植物を担当した大原信男氏が私の採集品について林博士に同定を依頼したところ、ムヨウランと同定しリストにのせたものである。その後、そのスケッチは所在不詳となっていたが、たまたま私が泰野市から三島市へ引越す際の荷物の整理中に現われてきたので見たところ、マヤランであることが判明した。したがって、林弥栄氏のリストからはムヨウランは抹消し、マヤランと訂正すべきものである。

る。

三島市広小路7-14 柳川定春

オールクリア・ただ今9種

調査が進んでくると、すべてのメッシュで収録される種類にはどんなものがあるかということに興味が出てきます。

湘南ブロックでは、標本を種ごとに包む整理を終え、第3次の仮目録を作成中ですが、現在までで、21のメッシュ全てで記録された種類が9種になりました。それはイヌワラビ・コブナグサ・ホウチャクソウ・イタドリ・ウツギ・クサギ・ガマズミ・オオバコ・カントウタンポポです。

カモジグサ・ヤマカモジグサ・カモガヤ・サルトリイバラ・オニドコロ・ヤマグワ・ミミナグサ・カワラナデシコ・ムラサキケマン・イヌガラシ・ネムノキ・コマツナギ・フジ・ゲンノショウコ・マユミ・ミツバ・ヘクソカズラ・アカネ・ヨモギ・ハルジョオン・コウゾリナも「残り1」で、これらは遅かれ早かれ記録されると思います。

しかし、全部というのは難しいもので、タブノキなどの暖温帯の植物のいくつかは「残り2」ですが1000m以上にはありそうもないので、ヤマユリなどは市街地ばかりのメッシュ2つで見つからないので、見こみなしです。人里の要素はかなり山に入りこんでいますが、それでもオオイヌフグリやバタクサは1000m以上では見つかりません。

県全体の調査が終わり、植物誌が刊行された時に、はたして何種類が108のメッシュ全てで収録されているか、それが私の弥次馬の興味のあるところなのですが、どなたか胴元?になって、あてっこをしてみたらどうでしょう?!。私は、40種類ぐらいいはあるのではと思っています。

浜口 哲一

箱根にカナクキノキが分布する

1983年6月25日、神奈川県植物調査会の調査に参加して箱根三国山に行った。山頂近くは、典型的な箱根のブナ林が残っていて興味津々だったが、同行の小田原の会員、吉田幸雄氏がブナの下でカナクキノキを発見された。カナクキノキは箱根では初発見であろうし、また神奈川県でも新産であろう。小さな木が2本、やや大きな木が1本、この林の中でもその数は少なかった。カナクキノキは西には多い木であるが、東はといったどの辺まで分布して来ているのか、みなで話しあったが、東大には愛鷹山の東麓、池の平(600m)と須山で採られた金井弘夫氏の標本があった。池の平と須山とは三国山と相対していて、三国山からは指呼の間にある地点である。なるほどこれなら三国山にこの木があってもふしぎはないとあとでわかったのであった。また、コウヤザサもブナの下にあったが、これは箱根で今まで見たことのないものであった。箱根新産なの

かどうか。東大には早田先生の採られた富士の標本があり、関東地方には散在的にその産地があるらしい。長谷川義人氏がキヨスミツバらしいものを採られたのも箱根ではめずらしかった。カナクキノキの産地をしらべたので、この記録はわたくしが書くことになった。

1983年7月 榎山 泰一

神奈川県に稀産と新産の植物三種

既に新聞でご覧になった方も多と思いますが、本年5月に神奈川県で2種のランとハマウツボ科の一種の生育が相次いで確認されました。

まずホソバラン(キヌラン) *Zeuxine strateumatica* (Linn.) Schltr. (ラン科キヌラン属)。

鎌倉市津の森澄夫さん方の庭先に生えているのが見つかかり、岩瀬秀夫さんが博物館に持ち込み同定をもとめました。このランの分布は、九州南部・屋久島・種子島・琉球・中国本土・台湾・フィリピン・マレーシア・インドシナ・タイ・インドなどで、日本では南九州以南にしか分布していないと思われているもので、当然のことながら県下での自生の報告もこれまでありませんでした。今回の発見についても、どのようにして県内に入り込んできたのかは不明です。調査会ではこのランを標本にしましたが、植物誌のリストにのせるかどうかはまだ決めておりません。

次にクゲヌマラン *Cepharanthera erecta* (Thunb.) Bivar. var. *shizuoi* Ohwi (ラン科ギンラン属)が、藤沢市内の砂丘地帯で、同市の塩沢努さんによって再発見されました。クゲヌマランは、大正時代に同市鶴沼海岸で発見されたことからこの名がつけられたものですが、このランの生育環境である海岸地帯の砂質のクロマツ林が宅地造成などによって急激な変化を遂げたため、昭和に入ってから絶滅したものと思われていました。生育地には現在100株ほどがあるといわれ、発見者の塩沢さんは誰にもその生育地を教えず、秘かにその生態を観察しているということです。植物誌調査をまとめる際には、標本を1点とカラー写真を調査会に寄贈して下さることになっています。

そしてもう1種、6月の梅雨を迎え、“見なれない花が咲いている”ということで着目されたのがキヨスミウツボ *Phacellanthus tubiflorus* Sieb. et Zucc. (ハマウツボ科キヨスミウツボ属)です。厚木市七沢の県立青少年センターキャンプ場で前場幸治さんによって見つけられたものですが、キヨスミウツボはカシ・アジサイ類などの根に寄生し、県下でも箱根周辺のタマアジサイの根元に群生しています。花期が梅雨期の一瞬と短く、あまり人目にふれず目立たないものです。植物誌仮目録にもその名は載せてありますが、まだ標本採集の産地は記録されていませんでした。

森本 七子

重点地区の調査

第1回

期日 4月24日(日)

調査地区 中井町 [NA1]

大井町 [O1]

参加者 内田藤吉, 大場達之, 高橋秀男, 内藤美知子, 長谷川義人, 浜中義治, 平松俊子, 林辰雄, 吉川アサ子

※大場達之さんの車に浜中義治, 平松俊子, 吉川アサ子各氏が乗車, 中井町米倉寺, 遠藤原, 境別所, 鴨沢, 小田原市の曾我山方面の調査を実施しました。長谷川義人さんの車には内藤美知子, 内田藤吉, 高橋秀男, 林辰雄各氏が乗車, 中井町比奈渚, 鴨沢, 大井町高尾方面への調査を実施しました。

このメッシュは今後県央地区が担当して下さることとなり, 当日採集された標本は平塚市立博物館で整理されることになりました。

第2回

期日 5月15日(日)

調査地区 小田原市 [OD-1]

参加者 大場達之, 高橋秀男, 内藤美知子, 長谷川義人, 浜中義治, 平松俊子, 榎山泰一, 吉川アサ子

※長谷川義人さんの車で箱根町堂ヶ島から久野林道を, 採集しながら小田原市の坊所まで移動しました。塔ヶ峰付近の岩場ではコガネシダを採集, 坊所の水田ではアズマツメクサ, ミズマツバ, ミズハコベ, ムシクサなど近頃めっきり少なくなった水田雑草も採集することができました。

第3回

期日 6月4日(土)

調査地区 箱根町駒ヶ岳 [HAK-4]

〃 須雲川 [HAK-5]

参加者 石田幸雄, 大場達之, 高橋秀男, 長谷川義人, 浜中義治, 林辰雄, 平松俊子, 吉川アサ子

※長谷川義人さんと石田幸雄さんの車に分乗し, 途中須雲川自然遊歩道で採集し, 箱根園へ向かいました。駒ヶ岳ロープウェイで駒ヶ岳山頂にいたり, 坊ヶ沢へ採集しながら下山しました。

第4回

期日 6月25日(土)

調査地区 箱根町畑宿飛竜の滝付近 [HAK-5] 一三
国山 [HAK-2] 一仙石原 [HAK-1]

参加者 石田幸雄, 大場達之, 高橋秀男, 武井尚, 内藤美知子, 長谷川義人, 浜中義治, 平松俊子, 榎山泰一, 吉川アサ子, 米山智恵子

※前回同様, 長谷川義人さんと石田幸雄さんの車に分乗, 上記のコースで採集して回りました。採集した標本は県立博物館で整理中です。

第5回

期日 7月9日(土)

調査地区 箱根町 [HAK-1 および HAK-6]

調査地点 箱根町金時神社付近 [HAK-1]

長尾峠 一丸岳 [HAK-1]

小塚山付近 [HAK-6]

参加者 秋山守, 大場達之, 高橋秀男, 武井尚, 内藤美和子, 長谷川義人, 浜中義治, 林辰雄, 平松俊子, 吉川アサ子

※梅雨どきで前夜まで天気が心配されましたが, 午前中はときには薄日のさす絶好の採集日和でした。当日一番の収かくは, 秋山守さんが採集したキバナノショウキランでした。長谷川義人さんと大場達之さんの2台の車に分乗して回りました。

今回の重点地区調査実施は, シダ植物, 単子葉植物, 双子葉植物, 及び樹木, の4つのグループに分けて各担当者を決め, グループ内では採集植物の重複を避けるようにし, また担当以外の植物で目についたものは互いに声をかけ合うなどしてきたので, かなりの成果をあげることができて, 複数による調査のメリットを再認識したように思います。

今後また9月からこのような調査を丹沢を中心に実施するように計画していますので, 参加ご希望の方は事務局の方へ御連絡下さい。計画が決まり次第改めて通知いたします。

事務局

今後の重点地区調査の計画

本年度に入って第5回まで箱根地区を中心に調査を実施してまいりましたが, 別記のように多数のかたがたのご協力により成果をおさめてまいりました。

引き続き, 第6回以降の重点地区の調査を次の日程で実施します。ご協力いただける方は事務局へ8月21日までに申し込んで下さい。追って集合場所・時間などの詳細な計画を, 申し込みただいた方にお知らせいたします。

尚, この調査は勉強のためではなく植物誌の調査のために行います。勉強のための機会は別に企画いたしますのでその点ご了承下さい。

調査メッシュは目下検討中ですが, 箱根, 真鶴, 丹沢方面が中心になるかと思えます。

実施予定

8月30日(火) (雨天中止) 箱根芦ノ湖周辺

9月4日(日) (雨天中止)

9月11日(日) (雨天の場合は15日)

9月25日(日) (雨天中止) 清川村調査の予定

10月9日(日) (雨天中止)

お知らせ

県央地区調査打合せ会を9月24日(土)午後1時より, 海老名市にある県立有馬高校で開催いたします。主に標本同定が中心になります。